

# 小学校高学年「入選」



## 厚南校区自主防災 会と台風十六号

厚南小6年 村岡 楓公

先日、八月二十七日に、ぼくは母は厚南校区自主防災会結成式に参加しました。この会は自分たちの土地は自分たちで守ろうと結成されたものです。宇部市では厚南地区が初めて作ったもので、すばらしいことだと話されていました。

厚東川の堤が切れたら、水がくるのか、避難場所はどこにあるかなど、地図を示して詳しい説明がありました。テレビのニュースではよく台風とか大雨とかの時、学校の体育館や公民館に避難した人たちの映像を見ます。たいていぼくは「れまごど」のような場合、どのように避難するかは考えたことありませんでした。あまりにも持たず、人がたぐさんいて不便そうだなと思いましたが、その時その人たちが自分の家が水につ

かっしてしまっているのではないかと、家が流されそうになっているのではとか、土砂で埋まってしまうのかもという不安な気持ちを持っていたのは気が付きませんでした。家族の「命のこと、たぐさんの不安でいいじゃないか」ともいって、厚東川の堤が切れたらぼくたちの校区のたぐさんの場所が水につかっしてしまうことを知って、とてもこわくなりました。しかも水があつたままにゆかの上まできつてしまえば、例えそれが壊れている時たぐらにぼくがたぐきできず、きせいで者がたぐさん出るといふ話もききました。

四つの班に分かれて作られた地面の高さによって分けられた地図は、とてもわかりやすかったです。ぼくの家は少し高い所だったので、避難場所の厚南小学校もわりと近いので、少し安心です。担当の方たちの発表でもしも電気が止まっただけの報がならせなくなつたらお寺のかねをたぐさんついてもいいとか、消防自動車の入れない道があるとか、色々細いことも考えられているんだということもわかりました。

その後車いす体験、地震体験、消火器体験、煙体験、土嚢積み体験などを行いました。粉末消火器は子どもは使わせてもらえませんでした。そのかわり、水タイプを一番にしました。消火器を使う時はまず、「火事だー」と大きな声でさけびます。次に、扉内で使った右も左もわからなくなるので、先に出口を確保します。そして、風上に向い、発射します。火

の根元をむいて、ぼくがむいてみます。地震体験は少年消防クラブの合宿で行った消防学校で乗った事のあるゆめ号の車で行った車でもありました。震度七の体験です。煙体験は、無害な煙が立ちこめているテントの中に入り、通路を通って反対側から出るというものです。これは、すぐに出来ませんでした。しかし、実際の有害な煙だと聞いたら怖くはないかと思えます。煙は上へ上がる性質を持っていますので実際は有害な煙をなるべく吸わないように、下を歩いていかなければいけません。パニックにおちいるかもしれないからです。車いす体験は色々なことを教えてもらいました。ただ、たぐさんである車いすのひろげ方に始まり、坂の下り方上り方、小さい段差がある所の対処法などを教えてもらいました。車いすを使用している高い者などの方々に安全に避難させるための注意も教えてもらいました。なかなか力も必要です。

このすぐ後です。台風十六号が来たのは朝、子ども会の連絡もして、「避難場所は小学校を使ってもいいです。毛布や食料は各自で持って行ってください。」と聞いてきた時はきん張りました。話に聞いたことが身近にせまってきたりするのは、その時もう風も強く雨もたぐさんふつていて、どのくらいひどいかわらなかつた避難するんだと、何をやって行ったらいいのかわらなかつた。近所のおばあちゃんは大丈夫かなあ、一度にたぐさんの事を考えました。結成式の日、山口大学工學部の先生が、自分たちの土地を知り、どう避難するのかを日ごろから考えておくことが大切だと話しておられました。ぼくは聞いたことや教わったことをきちんと頭に入れ、ちゃんと実行できるように。冷静に判断し、落ち着いて行動することが大事だと思います。

選評  
余韻を残す  
見事な構成  
今年、各地に大きな被害がもたらされたり、大丈夫だとおっしゃる方も多かった。村岡さんの作品は、助まったり、余韻を残す被書を防ぐための知識を得たことと体験を通す。これらで、災害が起分の認識が変わって来たとき、いかに、とった過程が綴られているように避難するかを

考えたこともなかった大きな被害がありました。村岡さんが、目の前に「宇部市史」にそ迫った危機に「冷静に」の時の記録があります。判断し、落ち着いて行が、そういった経験を動することが大事だ。された厚南地区からと考えるまでに成長で、こそ、真つ先に自主防災きたのは、「自分たち災に取り組まれたのでの土地は自分たちで守しよう。村岡さんの作品をきつかけに、このくたさった地域の方々ような活動がいろんな地域に広がっていくとお陰ですね。厚南地区では、昭和十七年、猛烈な台風の(鶴)島小教諭・喜本知子」